

第5章 学生生活

学生が大学において充実した学習や研究を行い、また、豊かな人間に成長するには、学生生活を送るためのよい環境が必要である。そのため、大学は学生が充実した生活を送れるように、施設や設備を含め、きめ細かい配慮をしている。本学は、学生の教育課程に関する事柄以外の事項を教員組織では学生委員会（第4章Iの6参照）が担当し、事務局では工学部は教務課が、看護学部は教務学生課が所轄している。

以下、学生生活を中心に、入学試験と卒業後の進路を含めて述べる。

I 入学

工学部の入学者選抜には、推薦入試、一般入試及び私費外国人留学生入試の3種類がある。推薦入試には、特別枠として職業科枠を設けており、出願は富山県内の高校に限っている。一般入試のうち、前期日程については、センター試験と個別学力検査の受験が必要であるが、後期日程については、個別学力検査を課していない。

大学院工学研究科の博士前期課程及び博士後期課程の入学者選抜は、いずれも一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の3種類からなる。

短期大学部については、2008年度（平成20）の入試をもって学生募集を停止しており、同専攻科についても、2010年度（平成22）の選抜をもって学生募集を停止している。

看護学部の入学者選抜については、推薦入試及び一般入試の2種類がある。推薦入試の出願は富山県内の高校に限っている。一般入試には、前期日程と後期日程があり、いずれもセンター試験と個別学力検査等の受験が必要である。

なお、令和3年度入学者選抜からセンター試験は「大学入学共通テスト」に、推薦入試は「学校推薦型選抜」に、一般入試は「一般選抜」に変更される。

これまでの入試及び入学者の状況は資料5.1のとおりである。

II 暮らし

1. 住居の状況と費用

学生生活の基盤は、住居と生計の維持である。富山県外の出身者が工学部、大学院では約半数、看護学部では約4割であること、また富山県内に自宅がある場合でも大学まで通学時間がかかる者がいることなどにより、大学近くに学生の宿舍を確保することは、重要な課題である。本学には寄宿舍がないので、開学時から教務課が学生のための宿舍（下宿・アパート・マンション）確保のため、宿舍情報の収集と宿舍の紹介・連絡を行ってきた。とくに開学準備の段階、開学後2～3年の間は宿舍確保が重要であった。旧小杉町役場に学生宿舍の確保について協力を依頼し、町民への大学周辺学生用アパート・マンションなどの建設協力要請、および町民対象の広報紙に個人住宅の空き部屋の貸与をふくめて学生の宿舍確保についての依頼の掲載を要請した。その後も低家賃で安心して大学生活が